

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：名古屋大学プログラミング講習競技会、上段右：名古屋大学科学部 サイエンスアゴラ2018での実験教室。

下段左：名古屋大学全学同窓会関西支部総会、下段右：名古屋大学同窓会サミット

Upper Left: Nagoya University Programming Seminar & Competition; Upper Right: Nagoya University Science Laboratory (Laboratory classroom at SCIENCE AGORA 2018); Bottom Left: General Meeting of the NUAL Kansai Branch; Bottom Right: A Summit Meeting of NUAL Associations

Contents

特集1 第2回名古屋大学同窓会サミット報告・・・2
Summit Meeting of NUAL Associations

特集2 名古屋大学プログラミング講習競技会
の開催・・・4
Nagoya University Programming Seminar &
Competition

同窓会ニュース・・・5,10
NUAL News

活躍する会員たち・・・6
NUAL People in Action

事務局からのお知らせ・・・16
From the NUAL Office

特集では、二度目の開催となった同窓会サミットの模様と、同窓会支援事業に採択された名古屋大学プログラミング講習競技会 NUPSC の様子をご紹介します。活躍する会員たちのコーナーでは、グローバル企業でご活躍の藤井さん、石油開発でご活躍の奥井さんにお話いただきました。

In our special features in this edition, we report on the second Summit Meeting of NUAL Associations, as well as introduce the Nagoya University Programming Seminar & Competition (NUPSC), which was selected as a NUAL Support Project. In NUAL People in Action, we hear from Mr. Fujii, who works in a global corporation, and Mr. Okui, working in petroleum development.

第2回名古屋大学同窓会サミット報告

Summit Meeting of NUAL Associations

名古屋大学全学同窓会副会長
伊藤 義人



1. はじめに

平成30年6月16日（土）の16時から、野依記念学術交流館で、第2回名古屋大学同窓会サミットが、昨年の第1回に引き続いて開催されました。昨年と同様に、学部や研究科の部局同窓会だけでなく、独立して活動している学科や専攻の同窓会の会長および事務局長（幹事長）などの役員も参加しました。また、松尾総長、木村理事、上月理事・事務局長の大学役員にもご出席いただき、全学同窓会の役員を含め総勢44名でした。

名古屋大学には、現在31の部局等同窓会がありますが、今回は、24の同窓会が参加しました。7つの同窓会が、会長や幹事長のご都合がつかずご欠席でしたが、事前アンケートには、全ての同窓会から回答があり、名古屋大学同窓会サミットへの関心の高さがうかがえました。

全学同窓会が16年前に設立された時から、部局同窓会と全学同窓会は、お互いに協力はするが、独立して運営し、分担金などは課さないことになっています。全学同窓会の幹事会と評議員会に、部局同窓会から委員を出してもらうなどの協力関係は、これまで良好に続いています。また、各同窓会への寄附金を指定の部局同窓会に送金するなどの協働関係も続いています。しかし、部局・学科・専攻同窓会の会長などの役員と全学同窓会の役員および大学役員との合同の交流は、昨年の第1回同窓会サミットまではありませんでした。



岡田副会長挨拶

昨年の第1回名古屋大学同窓会サミットにおいて、情報共有の重要性が認識され、毎年、同窓会サミットを開催することが決められました。

2. 第2回名古屋大学同窓会サミット

1) 岡田副会長あいさつ

16時から私の司会によって始め、まず、岡田全学同窓会副会長から、次のようなあいさつがありました。本サミットは、拠って立つ空間、時間の異なる人間の集いであり、空間、時間、人間には「間」という文字が付いていますが、この「間」をどう繋ぐかということが連携を目指す本サミットの課題です。優秀な人材を集めるために名古屋大学のブランド価値を向上させること、そのために財務基盤を強固なものにすること等が基本的な課題になると思われます。

2) 松尾総長あいさつ

同窓会サミットは、同窓会どうしや大学がネットワークとして結び付くものであり、情報を共有してより発展していくとよいです。高等教育においては大学改革が焦点になっています。日本の停滞は大学に原因があると言われることがありますが、ピンチはチャンスであり、名古屋大学がより良い大学となるよう頑張っていきたいと思います。

3) 自己紹介と懸案事項

昨年は、自己紹介に時間をかけましたが、今回は2回目ということもあり、名前と所属だけの簡単な自己紹介を全員がしました。その後、前回議事録の確認をしてから、そのとき出た以下の懸案事項を話し合いました。

a) 部局同窓会の財政状況や活動について

各同窓会の財政状況の情報共有のため、可能な同窓会から予め決算書を提出していただき、取扱い注意で持ち帰ることにしました。

事前アンケートの結果と合わせて、同窓会によって財政状況は全く異なっており、年間の財政規模は、同窓会によって、



松尾総長挨拶

数十万円から約2,700万円まで大きくばらついており、名簿や会誌を発行している同窓会もあることがわかりました。

事前アンケートの中で、組織改編に伴って合併などの同窓会の組織変更を検討している同窓会の回答がありました。外国人留学生が多い同窓会の活動についても紹介がありました。

b) 各部局同窓会と全学同窓会の支部の活動状況について

事前アンケートの中で、支部の活動状況を聞きました。支部を設置しているのは全学同窓会を含め11の同窓会、設置していないのが21の同窓会でした。また、支部活動の内容についても種々のものがあり、同窓会によって多様な回答がありました。

基本的に各支部で会費を定期的に取りっている同窓会はなかったですが、支部の区割りは、大都市中心から県別の同窓会のように多様でした。

和田全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の支部活動などについて説明があり、支部幹事会などに部局同窓会からも参加していただいております、まだ参加していない部局同窓会の支部は積極的に参加してほしい旨の要請がありました。

名古屋大学の同窓生に対して、何らかの特典ができないかとの要望がありました。後の交流会でも要望が出ましたが、学内で部局同窓会の行事をするときに、部屋を無償で使用できるようにしてほしいとの発言が出ました。

c) 名古屋大学の最近の状況

松尾総長から、名古屋大学が文科省から指定国立大学法人としてこの3月に指定され、その現状について、資料に基づいて説明がありました。また、木村理事から、名古屋大学基金について、資料に基づき説明がありました。特定基金について、部局同窓会等の協力要請がありました。

d) 部局同窓会、全学同窓会および大学との今後の連携について

今後とも、部局同窓会と全学同窓会および大学との情報共有と協働活動を進めることになりました。部局等同窓会の会長



交流会の様子

と幹事長等の名簿を共有して、情報交換を可能として、来年度以降も名古屋大学同窓会サミットを継続することにしました。

3. 交流会

少し休憩して、17時45分から同じ場所でお弁当とビールが供され交流会が行われました。以下のような項目について、自由闊達に議論が行われました。

a) 部局同窓会行事開催時の施設利用について

部局同窓会が、名古屋大学の施設を使用する場合に、外部者利用ではなく、同窓会であれば無償で借りることができるようにしてほしいという要望が出されました。同窓会として、正式に無償で借りることができる仕組みを作してほしいということでした。現在、施設関係の貸出規定を順次検討しているという回答が大学側からありました。

b) 外国人同窓生との交流について

世界中の同窓会リーダーを集めた交流会を実施してほしいという意見が出ました。国際開発研究科同窓会から、グローバルなネットワークを持っており、このネットワークを母校の発展のために拡大、強化していきたいと考えているという発言もありました。

c) 部局同窓会行事について

現在、全学同窓会の海外支部設立総会や国内支部の毎年の総会には、総長も参加されており、今後、部局同窓会の行事にも総長等の大学役員も呼んでもらえば、可能などきは出るという総長からの発言がありました。また、一般参加可能な部局同窓会行事についても、ホームページなどを利用して、今後積極的に情報共有し卒業生が広く参加できるようにすることが確認されました。

d) 大学の組織改編と同窓会の在り方について

既に部局の組織改編が進み、同窓会のあり方を検討している複数の同窓会がありますが、今後とも組織再編は加速する可能性があり、同窓会も柔軟に発展していくことのできる方策を考えておく必要があるという意見が出ました。また、外部からわかりやすくすべきで、大学の組織改編に全て合わせる必要はないという意見も出されました。

強固なネットワークを作る意味で同窓会は大きな存在であり、さまざまな人間関係の中で生み出される経験や知識等のさまざまな価値を大事にする必要性が認識されました。

4. おわりに

大変有意義な活発な情報交換と議論ができ、次年度も第3回名古屋大学同窓会サミットを開催すること、交流会は会費制の立食形式として全体の情報共有の場と個別交流の場を設けることについて私から提案をし、同意が得られました。

名古屋大学プログラミング講習競技会の開催

Nagoya University Programming Seminar & Competition

平成29年度第2回全学同窓会大学支援事業に採択され、2018年5月に開催された、名古屋大学プログラミング講習競技会（NUPSC）をご紹介します。

We learned about the Nagoya University Programming Seminar & Competition (NUPSC), which took place in May 2018 after being selected as a second round NUAL Support Project in 2017.

名古屋大学プログラミング講習競技会組織委員会 委員長
名古屋大学情報文化学部4年 謝(コトイ) 昊辰(コウシン)

名古屋大学全学同窓会を始めとする多方面からの支援と支持の中、延べ一週間にわたる「2018年名古屋大学プログラミング講習競技会」が今年5月に開催されました。この講習競技会はその英語名「Nagoya University Programming Seminar & Competition」をもとに「NUPSC」と呼ぶことになりました。今年から情報学部及び学生団体 Sicss Society が試みたプログラミング教育の普及事業です。

NUPSC においては、今まで情報科学と深くかかわったことのない学生に多様なアクティビティーを通じて情報科学を味わってもらうことを主な狙いとして一週間にわたるプログラムが用意されていました。5日間のプログラミング講習を中心にその前後に情報科学の学术界並びに産業界それぞれの最先端に立つゲストによる招待講演や、競技プログラミングという知的スポーツを模したプログラミング競技会などのアクティビティーが用意されていました。NUPSCは講習会及び競技会に分かれ、参加者は自由にどちらか、或いは両方に参加することができます。競技会に参加し、上位を獲得した参加者には賞状及び賞品の授与が行われていました。

日付	アクティビティー
5/12 (土)	開会式 / William E. Byrd 博士による招待講演
5/14 (月) ~ 5/18 (金)	プログラミング講習会(毎日放課後に2時間ほど開催)
5/19 (土)	プログラミング競技会
5/20 (日)	今城健太郎氏による招待講演 / 産業界紹介 / 競技会表彰式 / 閉会式 / 立食懇親会

(表: NUPSC のプログラム)

高校生以上を対象者として主に大学生に参加の募集をかけたところ、高校生12名、高専生3名、大学生99名の、計114名の参加者が集まりました。参加者のうち40名は競技会に参加し、6名は銅賞以上を受賞して、最終日に行なわれた表彰式において情報学部の村瀬洋学部長から賞状が渡されました。又閉会式に於て名古屋工業大学の松

尾啓志教授をはじめとする学术界及び産業界の来賓方によって様々な分野で活用されている情報技術が紹介されていました。その後に開かれた懇親会では参加者、来賓、主催者の交流が進み、盛況を呈していました。参加者に配られた事後アンケートの調査結果によりますと、大多数の参加者は NUPSC の活動を通じて情報科学に関する知識を学び、更にその面白さを体験することができたとのことでした。

NUPSC は情報学部との共催で学生団体 Sicss Society が主催し、昨年作られた名古屋大学教員を含む組織委員会によって運営されました。その運営にあたっては全学同窓会からの助成、株式会社エイチームと有限会社来栖川電算を筆頭とする計7社の企業スポンサーの協賛、さらには同じく名古屋大学発の学生団体 OthloTech の協力を仰ぎました。情報化が大いに進む現代においてはプログラミング教育を含む情報教育の普及及び推進が産官学における最重要課題の一つであるのは明らかであり、このたびの NUPSC の開催はその責務の一部を、協力して下さった皆様の力を合わせてなしたのではないかと我々は考えています。

注: Sicss Society は2017年に設立した計算機科学にフォーカスする学生団体 / OthloTech は2016年に設立した学生クリエイティブ集団

関連 URL: (NUPSC ホームページ) <https://nupsc.sicss.org>



開会式の様子

追悼 光岡 朗 監事

東桜税理士法人 児玉 光正

平成30年2月9日に名古屋大学全学同窓会の光岡朗監事がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

光岡監事は、昭和34年3月に名古屋大学経済学部をご卒業され、昭和39年4月に公認会計士光岡朗事務所を開設し、税理士法人制度が定められた後の、平成16年6月に東桜税理士法人を設立され、以来代表に就任されてきました。この間に、平成14年4月から平成19年3月まで、名古屋経済大学経営学部の教授をされていた時期もありました。

名古屋大学全学同窓会では、平成14年10月の設立当初から監事として関わられてきました。名古屋大学経済学部在学中は、山崎研治先生のゼミに在籍し、卒業後もゼミ幹事として長く山崎ゼミの活動に関わられてきました。公認会計士の仕事として、名古屋大学生生活協同組合の監査を担当されたり、経済学部の同窓会であるキタン会の監事を務められた期間も長くありました。名古屋大学とは浅からぬ縁で繋がって見えました。

平成29年11月20日に病院に行く前日まで、詩吟の大会に出かけるなど、普通の生活を送って見えたのですが、歩くと心臓が煽（あお）ってしんどい等の症状を話す時があり、念のために診察を受けたところ、そのまま手術をすることになったそうです。手術自体はカテーテルで心臓の血管を広げるもので、簡単なものだったはずと聞いていましたが、そのまま意識が戻ることなく亡くなら

れました。享年83歳でした。

本人としてはまだまだ道半ばであり、遣り残したことは沢山あったかと思われそうですが、生涯現役を貫き、充実した幸せな人生だったことと思います。

感謝と哀悼の意を込めて追悼文を捧げます。



名古屋市公会堂の詩吟の大会にて



可愛いので、この後、お買い上げ



正月、孫と一緒に

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第30回は、大学院多元数理科学研究科を修了されグローバル企業でご活躍の藤井篤之さん、大学院理学研究科で博士学位を取得され石油開発でご活躍の奥井明彦さんにお話しいただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. In this 30th edition, we hear from Mr. Shigeyuki Fujii, who graduated from the Graduate School of Mathematics and now works in a global corporation, as well as Mr. Akihiko Okui, who completed his doctorate in the Graduate School of Science and works in petroleum development.

ふじい しげゆき
藤井 篤之さん



■略歴

1979年	岐阜県生まれ
1998年	名古屋大学理学部入学
2002年	名古屋大学多元数理科学研究科入学
2007年	名古屋大学多元数理科学研究科博士後期課程単位満了退学
2007年	アクセント株式会社 入社
現在	アクセント株式会社 戦略コンサルティング本部 シニア・マネジャー

グローバル企業をプラットフォームにして日本を変革する

1. どんな会社で何をしているのか

私が今働いているアクセントという会社は、「ストラテジー」「コンサルティング」「デジタル」「テクノロジー」「オペレーションズ」の5つの領域で、あらゆる産業の企業や官庁に幅広いサービスとソリューションを提供しています。現在世界に約45万人、日本に約1万人の社員を抱える、世界最大級の総合コンサルティング企業になります。

私は、企業や官庁の経営戦略を立案支援する「ストラテジー」に在籍して10年経ちました。入社してしばらくは、主に官庁・自治体など公的セクターを対象にした仕事を担当してきました。現在は、特に行政からの関与が高く、かつ今後、日本の変革テーマとして産業横断で取り組まなくてはならない、スマートシティ、農林水産業、ヘルスケアの3つを専門領域として、公的機関に限らず民間企業に対しても戦略コンサルティングを手掛けています。

2. 名古屋大学で何を学んで、どういう経緯で今にいたるか

私は名古屋大学で博士後期課程までの9年間数学を学んでいました。今でこそアクセントにもデジタル（中国語だと「数字」!!）という部署に統計解析を専門とするチームが出来、数学系に近い出自の人間も増えてい

ますが、社内では珍しい部類だとは思いますが。

博士後期課程までいたことが示す通り、大学在籍時は数学の研究者を目指していました。中学生の時から数学が好きで、大学に入ってより抽象度が増し、新しく美しい概念を学ぶたびに数学で食べていきたいと考えようになりました。博士後期課程時代には、世界的数学者の方と交流する機会を得られたり、トロント大学のフィールズ研究所にビジターとして派遣していただいたり、また先生にも恵まれて大変有意義な研究生生活を送ることができました。博士論文の修正途中で入社して、その後修正する時間がないまま時間切れになり単位満了退学となってしまいましたが、自身の研究成果が詰まった論文をジャーナルに載せることもできました。また、私生活では地元の岐阜で吹奏楽団を設立して運営したり、塾講師や高校の非常勤講師なども務めたりするなど、充実した学生生活を送っていたと思います。

しかし、数学研究の厳しさも身に染みて感じる中、D2の2月に朝起きて、ふと「就活しよう」と思い立って就活を始めました。既に就活戦線真っ盛りの2月からの参戦、社会を知らない博士後期課程の20代後半で受け入れてくれる企業は外資系を中心に一部のみ。それなりに苦戦しながらも、それまで存在すら知らなかったコンサルティン



新入社員時の海外トレーニングでの一コマ



農業高校生向けの講義 アクセンチュアイノベーションハブにて

グ業界の門を叩き、縁にも恵まれてアクセンチュアの戦略グループ（名称は当時）に入社しました。

入社して最初の仕事で思ったことは、「会社の仕事って数学の研究よりも、ずいぶんと楽だな」でした。（それを社内報で書いたところ、しばらくの間ネタにされましたが）数年かかっても答えが出ないかもしれない問題に皆が取り掛かっている数学の世界から見た時に、（新人に任せられる仕事というのは特に）短い期間で答えを出さなくてはならない企業の世界は簡単に思えたものです。その意味でも、名古屋大学での研究生生活は良い財産だったと思います。

3. 日本の変革その①：地方を変える

入社して5年目の春に東日本大震災が起きました。私はその時東京にいたのですが、私自身も避難しながら、テレビに映る東北の惨状に非常にショックを受けたのを覚えています。

その年の8月、アクセンチュアは震災復興の拠点として福島県会津若松市に福島イノベーションセンターを設立し、復興に向けた経済政策立案の支援を始めました。当初は復興支援として、様々な企業と協力して社会貢献から事業創出まで進めてきました。復興計画の立案を進める中で、会津若松の課題は地方の課題の縮図であること、一方で会津若松にはICT 専門大学の会津大学をはじめとする資産があることから、会津若松市をデータ産業が集積し社会課題を解決するイノベーションの拠点とするべくスマートシティ化を目指すことになりました。そして、会津若松市は今や地方創生の文脈で有名なスマートシティの一つになりつつあります。

私は、震災の年から本プロジェクトに関わることでスマートシティについてのノウハウを学び、今では他の自治

体のみならず企業のスマートシティ事業戦略の立案まで携わり、日本の地域や都市が自らイノベーションを生み出す拠点として変革することを支援しています。

4. 日本の変革その②：教育を変える

一方で、私はアクセンチュアの企業市民活動（いわゆるCSR）の一員として、小学生から高校生までの人材育成事業に携わっています。アクセンチュアは製品を持たないため“人材”こそが財産です。私たちはグローバル全体で Skills to Succeed をテーマに掲げ、私たちの強みを生かせる人材育成を社会貢献の核に据えています。日本においても課題に応じて様々な取り組みを進めています。私は、人工知能等のデジタル化、労働力のグローバル化が進展する今後の日本において、エリート層に限らず幅広い子ども達が、自ら課題を設定し、考え、発信し、行動するような人材として育つことが重要と考えており、私がリードを務めるチームでは教育現場・企業・市民団体・アカデミアが連携して次世代の教育プログラムを実践的に作り上げる取り組みを続けています。

例えば、東北の7つの農業高校を対象に、生徒に疑似的に会社を作らせて、商品の企画からマーケティング、事業計画、製造、販売、決算の一連の流れを、プロである弊社社員ボランティア講師の指導のもと、自ら進めるプログラムなどを行っています。

5. どこに向かうのか

これまで上記のように、私はアクセンチュアという大きなプラットフォームを利用して、自身がやりたい事を実現させてきました。今後も、自身の好奇心が向くまま、何かを変え続けることが出来る世界に身を置き続けたいと思っています。

おくい あきひこ
奥井 明彦さん



■略歴

- 1960年：富山県富山市に生まれる。
- 1985年：名古屋大学大学院 理学研究科 地球科学専攻（岩鉱）修了。出光興産（株）入社。
- 1990年：石油公団（現 JOGMEC）石油開発技術センター出向。
- 1996年：出光興産復帰後も2足のわらじで石油公団での研究も継続。
- 2005年：出光興産に完全復帰。主任技師となる。石油技術協会賞受賞。
- 2010年：博士号取得。上席主任技師。
- 2015年：資源部 技術課長、現在に至る。

地球の歴史を知ることがビジネスになる

1. 取っ掛かりは

私は1985年に当時の理学部地球科学教室の修士を修了し、現在勤めている出光興産に入社しました。ガソリンスタンドやアポロマーク、最近では昭和シェル石油との統合でマスコミを賑わしている出光です。出光は1911年に創立され潤滑油や燃料油の販売を手始めに、戦後は全国に製油所を建設し、原油を輸入して自ら製品を作ることを始めました。これらは映画「海賊と呼ばれた男」に詳しく描かれています。出光が最後に辿りついたのが、石油産業の上流と呼ばれる石油開発。私が入社した当時、出光は新潟沖に海底油田を発見しその開発を行っている最中でした。

出光は当時から総合エネルギー企業を目指し、石油のみならず石炭、ウランおよび地熱等の他のエネルギーにも手を伸ばしつつありました。私は大学での専門が岩石学鉱物学で富山県に産出する飛騨変成岩を研究したので、実は地熱事業に関わりたく出光を志望しました。しかし当時地熱事業の採用は既に終わっており、代わりに石油開発を勧められました。出光に入ってしまうと後で地熱に関わることもあるだろうと思い、入社を志望しました。

2. 石油を見つける難しさ（だから面白い）

日本で石油の探鉱や開発を仕事にしている、と言ってピンと来る人は少ないと思います。国内に油ガス田があることについても同様なのではと思います。私も同じでした。新入社員研修の後、早速新潟に異動となり、沖合の掘削基地にヘリコプターで行き現場作業を経験。掘削基地と陸上を数週間で行き来する生活が始まりました。実は新潟沖にはどこにでも油ガス田があると思っていたのですが、実際には掘削しても石油はなく数億円以上の費用が無駄になることもあることを経験しました。昔、油ガス田を発見する確率は千三つ（1000本掘削して3本しか当たらない）と言われ、成功が難しい事業と言われていました。現在は確率が上がったものの、ShellやExxon

等のメジャークラスでも30～40%と言われています。つまり半分以上が失敗に終わり、その代わりに成功すれば大きな収入が見込める、いわゆるハイリスクハイリターンな事業ということです。

私は入社後、このことを体験し愕然としました。成功がなければ達成感も喜びもない訳で、とんでもない仕事に就いてしまったと思いました。同時にこのままではいけない、成功確率を上げないといけないとも思い、そのため技術力が必要だとの結論に至りました。石油の発見確率が低い理由は幾つかありますが、最たるものは石油の元である有機物を多く含む岩石（根源岩）が偏在していること、さらに石油が出来る場所と貯める場所が離れており地下を数 km ～数十 km 流動する必要があることでした。

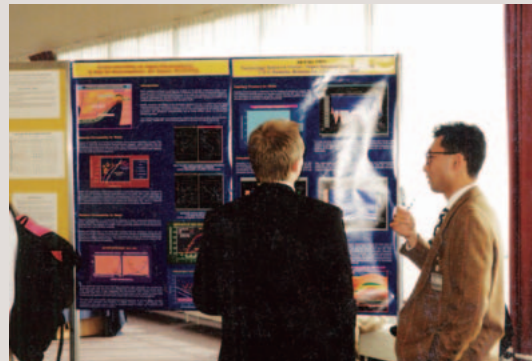
3. 石油開発に夢中になる

私は技術を習得するため、志願して石油公団の技術センターに出向しました。6年後に復帰命令が下りましたが、まだ研究を継続したいと思っていた私は、会社および石油公団にお願いして会社の業務を行いながら研究もできる身分にして頂きました。その結果、私の勤務時間は8時間を遥かに超え、夜遅くまで仕事をする事になりましたが辛いと思ったことはなく、今までで一番充実した時期だったように思います。

私が石油公団で研究開発した技術は、石油や岩石中の有機物を高精度に分析してその起源を特定するラボ技術、そして地下で油ガス田が形成される過程を再現するコンピューターシミュレーション技術です。石油等を高精度に分析することにより、その元になった有機物のタイプを特定することができます。例えば石油中にステランという化合物が含まれていますが、これは元々生物の細胞膜等を形成していたコレステロール由来であり、そのタイプの違いにより海の藻類なのか？湖の藻類なのか？が特定できます。また珪藻由来なのか？渦鞭毛藻由来なのか？、等の種類までも突き止めることができます。さらに



30歳の頃、中国奥地タクラマカン砂漠での地質調査



40歳の頃、国際学会でのポスター発表

特定の生物が地球に出現した時代が異なることから、根源岩が形成された時代を特定することもできます。シミュレーションでは、そういう分析で特定された根源岩が地下に深く埋没し、温度圧力が上昇して油ガスができる様子、さらに地下を流動して油ガス田を形成する、一連の過程を再現することが可能となりました。これら技術を駆使すれば、地下のどこに油ガス田が形成されているかを高精度に評価できることになりました。

研究開発により新しい発見をすると、やはり色々な人に聞いて欲しくなります。私は30~40歳の頃は世界中の国際学会に参加、また産油国の政府機関や海外の石油会社等を訪問して技術的な議論をする場を設け貪欲に活動しました。その結果、現在までに5大陸を全て踏破。また訪問した国は40ヶ国ほどになっています。外国人の友達もたくさん出来ました。

4. 技術力によりビジネスで結果を出す

会社と研究機関での業務を兼務したメリットは、研究のニーズを発掘し易いこと、そして研究成果を直ちに実務に適用し検証できることにあります。出光では国内のみならず海外、特にノルウェーやベトナムで石油の探鉱や開発事業を行っていました。私はこれら事業に習得した技術を適用し、油ガス田の発見等の成果に繋げることができました。例えば出光は、ベトナムでは操業主体として2つの海洋ガス田を、またノルウェーの北極圏で2つの油田等を発見しています。これらも含め、ここ10年の出光の油ガス発見確率は50%を優に超えており、私は自分が研究開発し習得した技術により貢献することができました。

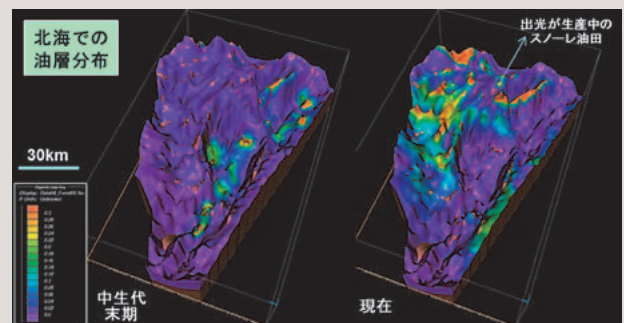
私はこれら功績が認められ2005年に石油技術協会賞および出光の社長賞を受賞し、また主任技師や上席主任技師に抜擢されました。2012年からは海外事務所を横断した技術評価委員会の委員長も兼務しています。民間企業では、巨額な投資判断を投資効率や資産の現在価値等の指標で決定しますが、それらを算出するた

めに油ガス田の発見確率や発見時の埋蔵量が必要となります。これらパラメーターは担当部署が評価すると甘くなってしまい、事業に失敗する可能性が出て来ます。そこで外国人を含む社内有識者で委員会を組織し審議することになっています。評価委員会では、時には海外事務所4か所を結び、日本時間の深夜まで英語で喧々諤々の議論をする場合がありますが、そのChairmanの重責を担っています。

5. 今となって思えば

油ガス田を発見することは、人間活動にとって不可欠なエネルギーを確保することであり、企業にとってはその存続に欠かせない収入を得ることを意味します。これら活動に従事する社員としては、難しいミッションで成果を出すことで達成感、つまり生きがいを得ることができます。特に技術者としては、自分が実施した評価により紡いだ仮説を実際の掘削で確認できることから、やりがいは人一倍だと感じています。

当初はどちらかと言えば第一希望ではなかった石油探鉱や開発という仕事でしたが、結局、どっぷりと浸かった人生を過ごすことになりました。しかし今となっては全く悔いはありません。



英国とノルウェーの間にある北海地域でのシミュレーション結果。色が紫→青→オレンジになるにしたがい地層中の油の割合が増加。6千万年前の中生代末期から現在に向かい油が移動している。

同窓会ニュース NUAL News

大学支援事業目録贈呈

平成30年4月19日（木）、平成30年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成29年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、9件の応募から、表の7件が採択されました。事業

の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

平成29年度第2回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
大学院国際開発研究科・研究科長 教授	伊東 早苗	国際セミナー：SDGsと新国際開発協力パラダイム
未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積センター 教授	宇治原 徹	学生をハブとしたオープンイノベーション推進プログラム
理学部 物理学科 2年	金岡 優依	TED×NagoyaU
工学部 物理工学科 応用物理学コース 4年	嶋田 耕太郎	プレゼンテーションアワー～卒業生・留学生を含む名古屋大学生の異なる分野間交流促進のための国際プレゼンテーション大会～
情報学研究科社会情報専攻 博士課程後期課程1年	Zeng Wei	世界で活躍する研究者を養成する Stand-up Comedy ワークショップの開催
工学部 物理工学科 材料工学コース 3年	中野 匠望	名古屋大学フォーミュラチーム FEM4輪独立駆動 EV 車両による全日本学生フォーミュラ大会制覇
医学系研究科看護学専攻博士 前期課程1年	原田 江美子	2017年度フィリピン看護学研修



採択された事業代表者の方々

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、平成15年3月26日（水）に設立総会を行いましたので、今年で設立15周年となります。

【幹事会】

6月21日（木）に、「名古屋大学東京連絡所」（学士会館）において、幹事会を開催しました。

- ・伊藤義人副会長にお越しいただき、「最近の名古屋大学と全学同窓会の状況」についてご紹介していただきました。
- ・来年（平成31年）2月9日（土）午後、学士会館において講演・交流会を開催することを決定しました。
- ・学士会との連携については、会員増強の一環として、3月26日（月）の名大卒業式において勧誘を行い、41名の方に入会いただきました。

【平成30年度関東支部講演・交流会（設立15周年記念）】

開催日：平成31年2月9日（土） 14:30～18:30

場 所：学士会館（東京都千代田区神田錦町）

講演会：エジプト考古学者の河江肖剰（かわえ ゆきのり）氏（名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター共同研究員）に最近のピラミッド研究についてご講演をいただきます。河江氏は、TBS「世界ふしぎ発見」にも出ていらっしゃいます。著書として「ピラミッド：最新科学で古代遺跡の謎を解く」（新潮社、2018）、「河江肖剰の最新ピラミッド入門」（日経ナショナルジオグラフィック社、2016）など。

交流会：大学から松尾総長、和田代表幹事にもご出席いただく予定です。

*詳細情報につきましては、今後、HP、メール等でお知らせいたします。

■連絡先 関東支部事務局長 岸 徹
E-mail kishi8678tr@ra2.so-net.ne.jp

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名古屋大学全学同窓会遠州会支部活動報告

名古屋大学遠州会同窓会は、第12回総会・第23回同窓会懇親会を平成30年6月2日（土）夕刻より浜松市内のホテルにて、来賓として松尾清一総長と全学同窓会の伊藤義人副会長、和田壽弘代表幹事のお三方をお迎えし、会員70名が出席して開催しました。総会開始前に集合写真を撮り、総会では南方会長の挨拶のあと、平成28年度、29年度の事業報告、会計報告・会計監査報告及び役員改選の審議を行いました。引き続き来賓の松尾総長から「名古屋大学の現在と未来 NU MIRAI 2020とNU-PRACTISS」をテーマとして、研究、国際化、指定国立大学法人等について昨年从今年にかけての1年の動きや取り巻く課題について詳しくお話を頂きました。また、伊藤副会長からは昨年度から実施している名古屋大学同窓会サミットについて、和田代表幹事からは全学同窓会の活動についてのお話がありました。

総会終了後、会場を変更しての懇親会では、大久保遠州会名誉会長の乾杯発声でスタートし、1年ぶりの再会を楽しみました。会の中盤では、用意した名大オリジナル商品や幹事提供の品物を景品としたビンゴゲームを実施し、老若男女大いに盛り上がり、和やかな会は21時に終了しました。

■連絡先 名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail enshuszk@yahoo.co.jp



集合写真（S51卒以前）



集合写真（S52卒以降）

関西支部 NUAL Kansai Branch

全学同窓会関西支部第13回総会開催

平成30年5月12日（土）14時から、名古屋大学全学同窓会関西支部第13回総会が、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、58名が出席しました。

総会は、関電プラント(株) 相談役の藤井真澄全学同窓会関西支部長の開会挨拶で始まり、その後、名古屋大学理学部・理学研究科素粒子宇宙物理学専攻 深川美里准教授の講演会が行われました。

深川准教授の講演では、「見えない光で観る宇宙—惑星系の誕生—」と題し、宇宙における惑星系誕生の過程を明らかにする研究について、観測結果も交えて、大変分かりやすくお話しいただきました。会員にとって新鮮な刺激にあふれ、大変好評を博すことができました。

休憩をはさんだ後、松尾総長から、「NU-PRACTISS (NU Project to Renovate A City into Tech Innovative Smart Society)」と題し、大学の情勢や今後の目標について報告がありました。引き続き、和田壽弘全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の活動、今年度の事業計画等について報告がありました。

また、今回の総会では、名古屋大学オリジナルグッズの販売を行いました。名大オリジナルのフェアトレードコーヒー、ベジタブルカレーや風呂敷などを販売し、多くの会員が購入されました。

総会・講演会後の懇親会には、44名が参加しました。脇田喜智夫事務局長の進行により、部局支部同窓会の代表者から近況報告があり、大変和やかなうちに終了しました。

■連絡先 関西支部事務局長 脇田喜智夫
御所南法律事務所 TEL 075-253-0777
E-mail office@goshominami.jp



深川准教授の講演

平成29年度共晶会関西支部活動報告

関西支部では、毎年3月第2土曜日の午後、大阪市内で支部総会と懇親会を開催しています。今年度は、3月10日（土）11時から名古屋より原 邦彦先生（共晶会会長、豊橋技科大副学長）、足立吉隆先生（マテリアル工学科・材料デザイン工学専攻）のお二人をお迎えし、大阪・福島の「TKP ガーデンシティ大阪梅田」で開催されました※。

原先生からは「共晶会について」と題して、共晶会が発足から喜寿を迎えること、八田基金の設立、および、今後の健友会（化学工学科同窓会）との好ましい統合、そして、深層学習によって進化している人工知能について幅広く、楽しいお話をいただきました。

足立先生からは、「未来の材料デザインの革新を目指して」と題して、3D4D 材料組織学として組織の可視化と数値化、人工知能を取り入れた材料学の基盤構築、相変態挙動解析から最先端鉄鋼材料の開発について深く、先導・先端研究のお話をいただきました。

後半は、昭和28年卒業の日口 章氏をはじめとして、昨年卒業の勝野大樹氏まで65年間の卒業生が、遠方は大分、山口（光市）から集い、総勢34名の近況報告にて、楽しいひとときを過ごしました。来年におきましても平成31年3月

第2土曜日に開催を予定しています。今後ともみなさまのご支援・ご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

※追伸：今年も昨年に引き続き、幹事の佐野研一氏（平成11年卒業）をはじめ、若人諸氏に設営から進行まで、すべてをお世話いただきました。とくに、はじめての TKP ガーデンシティ大阪梅田では、立派な横断幕をご用意いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

■連絡先 共晶会関西支部長 松井良行
株式会社コベルコ科研 技術本部
TEL 078-992-5193
E-mail matsui.yoshiyuki@kki.kobelco.com



同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

教職員用学生対応ガイドブック作成

申請代表者：植田健男
（教育発達科学研究科 教授（前・学生相談総合センター長））

学生相談総合センターでは、名古屋大学全学同窓会大学支援事業の助成により、本学教職員皆様の学生対応における一助となる「教職員のための学生対応ガイドブック」を作成いたしました。このガイドブックは、学生支援の専門家が集結している同センターに蓄積されている数多くの事例を参考にし、よくある事例をできるだけ具体的に提示し（個人が特定されないよう加工を施してはおります）、その際の対応や指導上のポイントをわかりやすく記載するように心がけて作成いたしました。学生対応の基本的な考え方と対応、守秘義務と連携、そして学生の特徴別・状況別（例、大学に来ない、学生指導状況）対応に章立てをし、索引を充実させるなど、わかりやすさと使いやすさを追求しました。また、最近大きな注目を集めている9つのトピックについてのコラムが収録されており、短いながらも大変読みごたえのある内容に仕上がっております。

今後は、本センターによる部局 FD の際に、各部局に配布させていただく予定です。教職員皆様の学生対応において、傍らにおいてご利用いただけると幸いです。なお本ガイドブックの内容は学生相談総合センターのホームページにも順次掲載していく予定です。

本ガイドブック作成に際し、同窓会の大学支援事業助成をいただきましたことに深く感謝申し上げます。



教職員のための
学生対応ガイドブック表紙

チュラロンコン大学-名古屋大学 学術交流 協定締結25周年記念シンポジウムの開催

申請代表者：財満鎮明
(未来社会創造機構 機構長)

チュラロンコン大学（タイ）との学術交流協定締結25周年を記念し、「アジアの未来を担う産業人材の育成」をテーマとした合同シンポジウムを、2017年8月3日（木）、バンコクにおいて開催しました。本シンポジウムは、「日・タイ修好130周年記念事業」の一環としても位置付けられており、両国の更なる学術交流の発展と、アジア諸国との国際産学官連携の推進を目的に開催されたものです。政府機関、学術・産業支援機関など10団体の後援・協力を得て、会場には、タイの他大学、タイ及び日本企業、チュラロンコン大学を含めた4大学間学術交流協定校のハノイ工科大学（ベトナム）とラオス国立大学、欧州の研究機関・企業など、6か国から220名を超える参加者が集まりました。

開会式では、ポムトン・マクラン ナアユタヤ チュラロンコン大学副学長並びに松尾清一名古屋大学総長から挨拶があり、両大学の連携の歴史や今後の ASEAN 諸国との連携への期待等が述べられました。続いて来賓として、小林茂紀在タイ日本国大使館広報文化部長からご挨拶をいただきました。

前半は、タイの科学技術政策や国際産学連携に関する基調講演、両大学の先進研究事例に関する講演の他、古賀伸彦トヨタ自動車未来開拓室長から、持続可能な社会の実現に向けた環境戦略について話題提供がありました。後半は、両大学から約70件のポスター発表が行われ、日本学術振興会（JSPS）の支援を受けて実施している「ASEANにおけるコンパクトモビリティモデル研究拠点」の研究発表の他、学際研究から創出された事業化・商品化の事例紹介、学生ベンチャー企業の紹介等、分野を超えた活発な意見交換の場となりました。また、当日は、チュラロンコン大学テクノプレナーシップ・イノベーション マネジメントプログラムと名古屋大学未来社会創造機構との間で、産学連携研究や人材育成に関する学術交流覚書の調印式も執り行われ、今後、社会と強く連携した新たな研究領域の創出や、グローバルな視野と広範な学識に基づき実践的に活躍できる産業人材の育成を協力して推進することが確認されました。

これらの行事が盛会に終えることができたのも、名古屋大学全学同窓会からのご支援、及びタイ国支部のご協力による



開会時の記念撮影

ものと深く感謝申し上げます。

今後は、グローバルな研究・人的ネットワークの更なる拡充を図り、世界トップレベルの大学を目指す本学の発展に一層の貢献を果たしていきたいと考えています。

サイエンスコミュニケーション団体・ 名古屋大学科学部

申請代表者：隈部岳瑠
(工学部電気電子情報工学科3年)

名古屋大学科学部では科学教育に関心を持つ学生が集まり、小学生からお年寄りまでを対象に「サイエンスをもっと身近に」するサイエンスコミュニケーション、特に小学生・一般向けの科学実験教室を中心に活動を行っております。

今年度は6月10・11日に開催された名大祭を始めて、7月29日に岐阜県先端科学技術体験センター（サイエンスワールド）で開催された「サイエンスフェア2017」、11月25・26日に東京お台場のテレコムセンタービルにて開催された「サイエンスアゴラ2017」（主催：独立行政法人科学技術振興機構）、12月17日に東海市で開催された「第45回東海ヤングフェスティバル」（主催：東海市）など様々なイベントで科学実験教室を行ったほか、名古屋大学博物館や刈谷市の「夢と学びの科学体験館」と共同で独自の科学体験講座を開催し、トータルで約2000名の方々に名古屋大学科学部オリジナルの科学実験教室を体験していただきました。特に今年度は名古屋大学全学同窓会からのご支援により、参加者に体験してもらう「実験」や展示物の質を向上することができたのに加え、サイエンスアゴラなど遠隔地で開催される全国規模の科学の祭典にも多くのスタッフを派遣することができました。これによって、普段家や学校では体験できないような実験を学生の手厚いサポートの元でより安全・円滑に実施できるようになり、参加者からの評価もより良いものになったと実感しております。

また、今年度は「サイエンスアゴラ」に3年連続での企画提供を果たせたほか、2015年に活動を始めて以来最多の実験教室開催数・動員数を達成することができました。これも全学同窓会からのご支援によるものと深く感謝申し上げます。

今後も科学教育に貢献すべく、活動の規模・エリアを更に広げていきたいと考えております。



2月18日に「夢と学びの科学体験館」（刈谷市）で開催した実験教室の様子

レ・ティン・ロン ベトナム司法大臣と 法学部同窓会の交流会

申請代表者：石井三記
(大学院法学研究科 研究科長(教授))

大学院法学研究科は、1999年に大学院に英語コースを設置し、留学生の受入を通じてアジア諸国における法律家育成に取り組んできたが、2016年4月、本研究科修了生のレ・ティン・ロン氏が、ベトナム社会主義共和国司法大臣に就任された。ロン大臣は、2007年に全学同窓会ベトナム支部を設立した当初より支部長を務められており、現在、同支部には、多数の同窓生が所属しており、司法省、首相府、外務省、中央銀行等、国家の中枢を担う人材として活躍している。

また、司法省傘下のハノイ法科大学内に設立された日本法教育研究センター(ベトナム)は、本年、設立から10周年を迎えた。同センターは、設立以来71名の修了生を輩出し、ベトナム国内の法律関係機関、日系企業・日系法律事務所などに就職し、日本語および日本法の知識を生かして活躍している。

そこで、2017年11月15日、日本法教育研究センター設立10周年シンポジウム・式典をハノイ法科大学にて、祝賀パーティーを日本大使公邸にて開催した。本行事は、法学部同窓会が共催し、全学同窓会より後援、財政的支援を受けるとともに、法学部同窓生である村瀬幸雄氏が頭取を務める十六銀行とも共催し、助成を受けた。

10周年記念行事では、これまでのセンターの活動を振り返るとともに、近年ベトナムに進出する日本企業の増大を受けて、日越両国の経済関係の強化のためにセンターが果たしうべき役割について議論するシンポジウムを開催した。シンポジウムに続き、記念式典を開催し、ロン司法大臣にもご出席いただき、本学の法整備支援事業に対する謝辞が述べられ、ベトナム司法省からセンターに在籍する8名の学生に対して奨学金が授与された。日本からも、上川陽子法務大臣(代読)、川端和明文部科学省国際統括官、本記念行事に共催・助成いただいた村瀬幸雄十六銀行頭取からの祝辞が述べられた。式典後の祝賀パーティーにおいては、梅田邦夫日本国特命全権大使から、本学による人材育成が高く評価された。

式典前には、関係者でロン司法大臣就任祝いを行い、和田壽弘全学同窓会代表幹事のメッセージも読み上げられるとともに、ロン大臣と法学部同窓生の交流の機会も得た。



ベトナム日本法教育研究センター設立10周年記念式典

宇宙教育活動の推進

申請代表者：松浦健人
(工学部物理工学科4年)

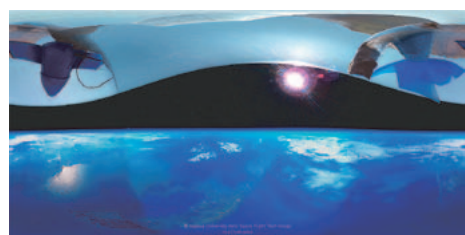
私たち名古屋大学宇宙開発チームNAFTは「宇宙を身近に」を理念に活動しています。大学生が宇宙にチャレンジすることを通して、周りの人達に宇宙に興味を持ってもらいたい、宇宙をもっと身近に感じてほしい、という思いから現在の理念にたどり着きました。この理念にもとづき、宇宙開発技術の開発や習得だけでなく、宇宙教育活動にも力を入れています。宇宙教育活動は、企業や科学館、学校の協力の下、ワークショップや講演会といった活動を行っています。また、宇宙開発活動としてスペースバルーンやハイブリッドロケットに関する実験を行っており、そこで習得した技術や知識を宇宙教育活動にも生かしています。

今回の全学同窓会からの御支援により、宇宙開発と宇宙教育の両活動の充実を図り、宇宙教育活動を通じた社会への還元を目指しました。特にNAFTは、参加者体験型の宇宙教育活動に力を入れており、今回の御支援は主に体験型の宇宙教育活動の充実にあてました。

NAFTは、体験型の宇宙教育活動の一つとして、VR(Virtual Reality)映像を用いた視覚的なアプローチによる宇宙の魅力の発信に取り組んでいます。VRとは頭に装着するメガネ型のヘッドマウントディスプレイに映像を投影し、体験者の視界全体に広がる映像を見せることができる技術のことです。このVR技術と2016年6月のスペースバルーン放球実験や2018年3月のハイブリッドロケット打上実験で私たちの撮影した映像を組み合わせることで、宇宙遊泳やまるでロケットに搭乗しているような体験を提供することが可能になりました。実際にVRを体験した人からは大変好評であり、宇宙の魅力伝えるための手法の一つとしてVR映像の使用は効果的であるという確かな手ごたえを感じております。また映像や活動はSNS等を通じて広く世間に公表しており、多くの人から反響を頂いています。

今回ご紹介したVR活動の他にも、参加者が工作やクイズを通して、宇宙の魅力を感じてもらうことにも取り組んでいます。今後もこれらの宇宙教育活動を継続して、名古屋から航空宇宙産業を盛り上げていきたいと考えています。

最後にこの場を借りてご支援いただいた全学同窓会の皆様に心よりの感謝を申し上げます。



VRの映像(スペースバルーン放球実験)

学術講演会「人工知能を大局的にとらえ、未来を考える」及び関連企画展示「情報を体験しよう」

申請代表者：村瀬 洋
(情報学部・大学院情報学研究科 学部長・研究科長)

*第13回名古屋大学ホームカミングデイにおける責任部局として企画・開催

①学術講演会「人工知能を大局的にとらえ、未来を考える」

今回のホームカミングデイのメインテーマである「尖がった情報技術、やわらかな人間社会」を基に、最近話題となっている「人工知能」をテーマに、人間の脳や心の働きと人工知能との関係や社会での人工知能の活用方法等について、以下の2名の専門家を招へいし講演していただいた。講演後は、本学の理事である郷通子氏と情報学研究科の戸田山教授も加わり総合討論を行った。当日は生憎の雨模様であったが、講演会場は多くの参加者で埋まり、講演後には講演者と会場とで活発な意見交換も行われた。

【講演者】

甘利 俊一氏 (国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター 特別顧問 東京大学 名誉教授)

土井美和子氏 (国立研究開発法人情報通信研究機構 監事 奈良先端科学技術大学院大学 理事 株式会社野村総合研究所 取締役)

②関連企画展示「情報を体験しよう」

現在、情報学部・情報学研究科が推進している研究の中から「情報」の現在を楽しく体験できる15のテーマを選び展示を行った。

今回の展示では、体験型のブースを多く設けたことにより、例えば「情報学と未来の医療」では、バーチャルリアリティを利用した手術シミュレーションの体験には多くの参加者が集まった。また「パズルで楽しむ最適化」ブースでは、実際に複数のパズルを使用して箱詰めを体験することができ、「ゲームで楽しみながら健康に」ブースでは、高齢者の転倒防止について効果的な訓練等をゲームを通じて体験することができるなど、「情報技術」が実生活に深くかかわっていることや当部局の最先端の研究内容を多くの来場者に知っていただく良い機会となった。

こちらの関連企画展示にも延べ約980人の来場者があり、盛況のうちに終了した。



総合討論の様子(甘利俊一先生、土井美和子先生、郷通子先生、戸田山和久先生)

同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。

詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1. 平成30年度関東支部講演・交流会 (設立15周年記念)

日 時：平成31年2月9日(土) 14:30~18:30

場 所：学士会館(東京都千代田区神田錦町)

講演会：エジプト考古学者の河江肖利(かわえ ゆきのり)氏(名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センター共同研究員)に最近のピラミッド研究についてご講演をいただきます。

*詳細情報につきましては、今後、HP、メール等でお知らせいたします。

連絡先：関東支部事務局長 岸 徹

E-mail: kishi8678tr@ra2.so-net.ne.jp

2. 東京キタン会「秋の川越歴史散策」

千二百年近くの歴史が培う天台宗喜多院、別名川越大師を初め、日本名城100選に数えられる川越城本丸御殿、小江戸川越の風情を醸し出す蔵の町の散策を楽しめます。

日 時：平成30年10月28日(日) 午前9時15分集合

集合場所：ウェスタ川越 交流広場(埼玉県川越市新宿町1-17-17)

参 考：散策はエムエス観光バスを使用します。

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

電話：090-7556-1710 E-mail: nmk_njp@ezweb.ne.jp

3. 鏡が池会東京支部総会

工学部土木系同窓会である鏡が池会の東京支部(主に関東地方在住者が対象)の総会

日 時：平成30年11月16日(金) 18:30~20:30

場 所：主婦会館プラザエフ B2F クラルテ

主 催：鏡が池会東京支部

連絡先：東京支部長 桑田尚史(20期)

TEL: 070-6931-3441

E-mail: kwthss00@pub.taisei.co.jp

4. 農学部同窓会

第21回農学部同窓会関東支部総会

日 時：平成30年11月17日(土) 13:30~17:30

場 所：学士会館 203号室 東京都千代田区神田錦町三丁目28番

講 演：日本水産学会永年会員木村健一さん「福島の海産魚介類への放射能の影響および水産業の現状」、森林化学研究室福島和彦教授「木の新しい価値をつくる」、宮木建雄さん・岡田常義さん「ザック担いでイザベラバードを辿る」

懇親会：乾杯、学生歌、懇談など

連絡先：支部長 石川靖文

E-mail: alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

詳 細：支部 HP <http://www.nua-alumkanto.net/>

○名大遠州会

名大遠州会第24回同窓会

日 時：2019年6月8日(土) 18:00~

場 所：オークラクトシティホテル浜松

連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎

E-mail: enshuzsk@yahoo.co.jp

○関西支部

1. 東山会関西支部 平成30年度 総会・講演会・懇親会
 日時：平成30年11月10日（土）15:00～19:00
 場所：大阪コロナホテル JR新大阪駅東 徒歩5分
 講演会は名古屋大学大学院 工学研究科機械システム専攻科
 教授 東 俊一様に講師を御願ひしております。
 連絡先：東山会関西支部 庶務担当幹事 小川耕司
 Tel：078-611-7133

2. 平成30年度関西セコイア会（農学部同窓会関西支部）総会のご案内
 日時：平成30年11月10日（土）10:00～15:00
 場所：中央電気倶楽部（大阪堂島）
 スケジュール：総会 10:00～10:40
 講演会 10:40～12:00
 懇親会 12:00～15:00
 講演者：京都府立大学 田中和博 先生
 事務局連絡先：寺前朋浩 〒669-1103 西宮市生瀬東町37-23
 E-mail：rikamoto@ares.eonet.ne.jp

○全学同窓会・学士会主催 講演会・夕食会

講演会

日時 平成30年12月21日（金）16:00～17:30（開場15:30～）

場所 名古屋大学野依記念学術交流館2階 カンファレンスホール

講師 榊原 定征 氏 東レ株式会社特別顧問、日本経済団体連合会名誉会長、名古屋大学全学同窓会副会長

演題 「日本経済再生への道」

夕食会

日時 平成30年12月21日（金）18:00～20:00

場所 グリーンサロン東山 レストラン花の木

※詳細は全学同窓会 HP
 (http://www.nual.nagoya-u.ac.jp)
 にてご確認ください。



榊原定征氏

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**16,000名**を超えています。



年会費永年無料!
ポイントがたまる!

家族会員様も1名様に限り無料。
 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEBからのご入会を希望の方
 名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
 ⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方
 名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
 ⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00～17:00)

編集後記

2回目となる同窓会サミットでは、昨年度の成功を踏まえて同窓会間でのより密度の濃い情報共有と問題意識の確認が行われました。同窓会ニュースでは、2月に逝去された光岡監事の追悼記事を見玉先生からお寄せいただきました。近年注目を集めているプログラミングをはじめ、多様な同窓会支援事業をご報告いただき、充実した紙面となりました。今後も卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.30 平成30(2018)年10月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会